

### 主な内容



- P 2 ..... 農林水産大臣賞受賞～遠藤昭男氏
- P 3 ..... 根室管内農業賞受賞～高平幸夫氏
- P 4 ..... ダンと町村酪農文化賞～佐伯雅視氏
- P 5 ..... 組合長談話
- P 6 ..... 女性部全道大会
- P 7 ..... 青年部根室地区大会
- P 8 ..... 組織活動報告
- P 9 ..... IDOL 赤堀将太郎くん(開陽)
- P 10 ..... 役員研修
- P 11 ..... 普及の窓
- P 12 ..... 第7回理事会報告、11月組合動静
- P 13 ..... 掲示板～

フリーストール飼養に放牧を組み合わせる2番草を有効活用  
するなどの営農が評価

# 遠藤 昭男氏

(俣落)

## 農林水産大臣賞を受賞



(前列) 遠藤昭男氏、美智子夫人、百恵ちゃん、(後列) 秀之くん、周作くん

(社)中央畜産会と(社)全国肉用牛振興基金協会が主催する「平成16年度全国優良畜産経営管理技術発表会」が10月29日、東京都の虎ノ門パストラルで開かれ、北海道代表として出場した俣落地区の遠藤昭男氏が「フリーストール方式における自給飼料の高度活用によるゆとりある高収益経営」と題して堂々と発表し、この会における最高賞である農林水産大臣賞と中央畜産会長賞最優秀賞を受賞いたしました。

今年の発表会は、全国各地の審査委員

会から中央審査委員会へ推薦された酪農9事例、肉用牛17事例、養豚6事例、養鶏2事例、組織グループ事例の合わせて35事例から、さらに12の優秀事例が選ばれて行われました。

遠藤氏は、今回の発表会を迎えるにあたり、(社)北海道酪農畜産協会の推薦を受け、北海道審査委員会の7人による書類審査を通り中央審査委員会へ推薦され、中央審査委員会による2度の書類審査と現地調査を経て受賞に至りました。

遠藤氏の経営は、フリーストール方式

を強めて、嗜好性の劣るとされる2番草を有効に活用し、乳牛の健康管理に努めていること。また、TMR給与のみの群管理だけでなく、パーラー内給餌も取り入れ、しっかりとした個体管理を行っていること。粗飼料収穫、ふん尿散布、育成牛の共同牧場委託などで省力化が図られていること。飼料基盤がしっかりとされており、乳牛の健康管理に努めているため、産次が長く、フリーストール方式でありながら、個体販売を多く行っていることなどによって高所得を得ていることが評価されたものです。



の飼養でありながら、2番草時期から放牧を取り入れることにより、乳牛の足腰

第28回根室管内農業賞

高平 幸夫さん(開陽)ら4人が輝く

農協法公布記念日の19日、平成16年度根室管内農業賞の授与式が、中標津町のウエディングプラザ寿宴で開かれ、根室管内農業賞委員会の丹羽忠文委員長よりJA中標津・高平幸夫(たかひらさちお)さんから4人の受賞者に対し長年の功績を称える農業賞が贈られました。

今年で第28回目を迎えた授与式には根室管内の行政・農業関係者ら約50人が駆けつけ、4人の受賞者が歩んできた農業、酪農業の足跡に対し、長年取り組んできた功績を敬い、影で支え続けた夫人に賞賛の辞を贈りました。



高平幸夫・美恵子夫妻

◆高平氏の略歴◆

昭和60年～63年

中標津農業共済組合理事

昭和63年～平成7年

根室地区農業共済組合監事

平成7年～13年

根室地区農業共済組合代表監

事

平成12年～現在

中標津町農協酪農実習生受入

協議会会長など

この略歴のように、激動する農業組織活動のなか、農業共済組合の合併にも時代の情勢に即した見識と指導力をもって積極的な組織運営に当たってきたこと。農業の経営規模拡大に伴う労働力対策として実習生受入協議会長を務め、短期・長期の実習生、中国からの研修生などを受入れて労働力の補充に努め、また、その繋がりにから結婚対策や新規就農対策に結びつけるなど地域農業・社会の発展に尽力されてきた功績が評価されたものです。

来賓の祝辞に立った中司哲雄北海道議会議員は、「今回、表彰された皆さんは、公職を持ちながら、親から継承した経営を発展させたり、一代で経営を堅実なものにしながら、管内の地域振興、農業の発展に大きな影響を与えた。この受賞を機会に引退ということではなく、もっと働いて欲しいということも踏まえて、後に続く人たちに、ご助言をいただき、地域の発展にさらに尽力されますように」と受賞者の取り組みを讃えました。

【受賞された4人は次の通り】

高平幸夫氏(67歳) JA中標津

本田和雄氏(58歳) JA計根別

奥山秀助氏(70歳) JA中春別

成田昭一氏(63歳) JA根室



# ダンと町村酪農展



## 佐伯雅視・由美子夫妻 ダンと町村酪農文化賞を受賞

11月17日、札幌市内のKKRホテル札幌で第13回「ダンと町村酪農文化賞」の表彰式が行われ、佐伯雅視氏・由美子夫人に対して、(財)ダンと町村記念事業協会より記念像などが贈られました。



特に酪農畜産関連の技師として多大な功績を残しました。その間に日本人を妻に迎えて、フロンティア精神も伝え北海道を愛しました。

この功績から「エドウィン・ダン顕彰会」が昭和37年に誕生し、回想録が発刊され、札幌・真駒内の中央公園に銅像が建立されました。

一方、町村氏については、ダンから直接指導を受け、片腕となってアメリカ式大農業の礎を築いたのが金弥(きんや)氏。内村鑑三などと同期の札幌農学校2期生として、後の北海道・東北の大農場開設と経営に参画して農業近代化の基礎を築きました。ダンから明治15年に真駒内牧牛場の運営を託され、ダンは帰国しました。町村金弥氏の長男、敬貴(ひろたか)氏は、その年に真駒内牧牛場で生まれました。金弥氏は、宇都宮仙太郎氏と敬貴氏を養成し、2人は乳量の多いホルスタインの導入と改良に尽力されました。

ダン氏と縁が深く、町村敬貴氏の死後にできた「町村敬貴記念事業の会」と前述の顕彰会が合併し、現在の「ダンと町村記念事業協会」となったものです。

文化賞については、酪農振興発展に貢献したものに對して表彰され、酪農に関連する科学技術、芸術や先人が示したフロンティア精神を継承されて本道酪農の振興発展に寄与されてきたかが受賞のポイントになります。

佐伯牧場の受賞に際しては、雅視

氏の父征次氏が田満州から引き上げ昭和29年に現在地に開拓団の一員として入植し、幾多の苦勞を重ねて酪農経営の基礎を築きました。雅視氏は、開拓者としての父の働きを通じて多くの苦難を克服し、北海道の開拓を進めた先達者を尊び、後世に伝えていく必要性を常日頃から唱え、父の時代から続く酪農家の地位向上、農村と都会を結ぶ活動を通じて、地域の文化を農業と融和し、実践的な活動を行ってきたことが高く評価されました。

これらの活動が、畜舎周辺環境整備であり、30年以上も続いている都会の子ども達を受け入れる夏期キャンプ「東京むそう村」の用地提供などです。歴代のむそう村に来て育った子供の中から、乳製品の製造販売を行うレストラン「牧舎」を経営する子たちも育まれてきました。また、昔の集乳所をもとに農業関連の資料や写真などを納めた美術館「婦農館」を開設。また、地元の版画家作品を展示し、「ミニコンサート」などを開く「荒川版画美術館」は、塔型サイロを改装したもの。そこでは農業者を中心として文化財を後世に残す活動なども開かれ、人と人との出会いを大切にしていた輪が大きく大きく広がっています。

酪農文化賞は、昭和59年の表彰以来13人目の受賞。前回、平成12年に酪農・畜産加工で白滝村の岡田秀雄ミナ子夫妻が受賞されて以来4年振りの表彰となりました。

### ◆ダンと町村酪農文化賞◆

明治初期の北海道開拓使は多くの外国人を招き、近代酪農の指導者として農業を展開していきました。そのなかでも札幌農学校教授クラーク博士はよく知られていますが、日本酪

農の父と言われるダン(エドウィン・ダン)については以外に知られていないかもしれません。

1年足らずの滞在であったクラーク博士より長期に渡り、明治8年以來7年間北海道に在住し、農業開発、

今年も残すところあと少しとなりました。高橋勝義組合長より1年を振り返りながら、師走の心境などを寄稿いただきました。

初冬の際、組合員皆様には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。年明け以降、大雪、吹雪などにより集荷が遅れる支障をきたしたり、施設・機械などに被害を受けるといった、冬期間に大変な苦労と大きな爪跡を残しました。

また、1月8日、長年に渡り組合長の重責を担った児玉光彦氏が急

## 「この時にこそ」を 合言葉に

死するという、突然の訃報に接し、深い悲しみに堪えません。改めてご冥福をお祈り申し上げます。

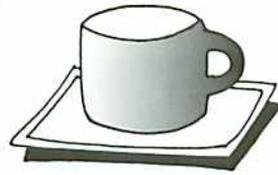
長い冬が去り、季節が春へと移る頃、順調に農作業がスタートし、肥料散布から種植えに至るまで一気に進み、その後もまずまずの天候に恵まれ、繁忙期を迎え、例年より早い牧草収穫に入りました。量、品質ともに確保でき今後に期待をかけておりましたが、思わぬ猛暑が続く、乳牛にも影響が出始め、11月上旬までの累計で、101.6%と計画より下回って推移しており、

要因、分析などにより、今後の見通しを探っているところです。

畑作におきましても同様に、暑さによる作物への影響がありました。特にだいこん、ブロッコリーは通常より生育が早く、また、害虫による品質低下を招き苦戦しました。単価においても計画を下回る状況にあり、最終精算の結果を待って、来年度以降の取り組みに生かして参ります。

馬鈴薯、ビートは収穫を終え、最終集計待ちですが、豊作年と言つていい

## 組合長談話



代表理事組合長

高橋 勝義

でしょう。

今年も残すところあと僅かになりました。振り返るといろいろなことがあり、過ぎる日々の早さを改めて実感しております。

今、組合員の皆様は、今年の経営実績をもとに、次年度の営農計画策定に入っております。脱脂粉乳在庫問題、でんぷん・砂糖の在庫、価格問題など、先行き不透明な環境もあります。が、前向きな計画樹立に向けて取り組ん

でいただけますようお願い申し上げます。

農協事業につきましても、外的な要素が本町において現実化して参りました。しかしながら、Aコープあるるは、改修を終えて更なる充実、品揃えにより、お客様に満足いただけるよう積極的に取り組み、順調に推移しております。スタンド事業もセルフスタンドの進出によって一部影響も出ておりますが、さらに町内にもう1店進出の準備を進めており、今後のあり方も含めて、詰めて参ります。



茂田石油

他、各事業も健闘しており総合力を発揮して、努力していく覚悟であります。

衣料、食品、資材など7店舗で構成される複合商業施設プレスボ中標津が11月23日順次オープンしました。し、東武の移転新築についても着工されはじめました。このように、大きく



プレスボ中標津

購買事業、消費の選択肢が増え、影響を私ども農協が受けることは必死であります。しかし、今まで築いてきた実績と信頼をもとに、試される農協の実力を「この時にこそ」を合言葉に、役員員全力を尽くして向かっていく思いであります。

この1年のご支援、ご協力に厚く感謝を申し上げますとともに、今後につきましても変わらぬご指導をお願いし、師走の心境と致します。

どうぞ健康に十分留意され、家族共々に新年を迎えられますようお祈り申し上げます。

# 共に学び、共に感じ、共に実践し、 かあろう！かえよう！



身振り手振りで健康増進について話す「村ヤソ子さん

初日、全道女性協議会伊藤会長の挨拶に始まり、組織活動体験、農業経営実践事例、家の光記事活用体験と3つの部門の発表会と各種表彰が行われました。また、「健康な自分を創るためにやさしい動きを身につけよう」をテーマとして、JA共済の健康増進活動を全国展開されている、二

第47回JA全道女性大会・北海道家の光大会が、11月11～12日の2日間で、札幌 ホテル・ドレーゼンサッポロにて開催され、当JAから参加の役員ら3人を含め、500人を越える道内JA女性部員が参加しました。



会場の参加者全員で「レインボー体操」を実践

村ヤソ子氏が講演されました。ご自身が体を痛め、そのリハビリ体験から生まれたという「レインボー体操」。心臓に負担をかけることなく優しい動きで全身に血液を送ることができ、生活習慣病の予防に。また、寝ていても座っていてもでき、ふだん運動から遠ざかっている、体力に自信のない人

でも無理なく安全に続けることができるということ、実践を交えながらの講演は、参加者の血流が良くなり、心と身体が温まる時間となりました。

大会初日も終了し、全体懇親会では全道各地女性部員の余興で、熱気は一気に頂点に達し、活力溢れる女性パワーがみなぎっておりました。

2日目、本大会の前に家の光専門講師・佐々木哲夫氏による

講演が行われました。「心ゆたかに」を広げよう、見る・知る・学ぶ、活かす輪をくと、女性部が学習する・ふれあう・協同する組織としてあらゆる知識を楽しみながら理解し、笑顔が満開になる生活を！とユーモア溢れる口調で話され、会場は笑い声で一杯になりました。

さて、本大会に入り経過報告、申し



今年も手作り加工品として地場産のじゃがいも、牛乳などを使ったポテトタルトケーキを役員で出品しました

合わせの提案・採択がなされ、全体討議の中では、地域の高齢化社会に伴うヘルパー事業について、BSE等の安全基準の問題など、直面している事例を含め具体的な意見交換がなされました。また、大会テーマ「心ゆたかにかあろう かえよう」が、食・農業・農村を大切にそれぞれの立場を尊重し合い、現状に甘んじることなく、共に学び共に実践し「かあろう」から「かえりました」へ、「かえよう」から「かえました」と実践できる活動を取り組み、組織の力が大きな輪となって広がるようにと大会宣言され、伊藤会長から二日間の興奮をそれぞれが地元を持ち帰り、組織の活動が益々栄えるように！そして、働くだけではなく生活に潤い・豊かさ・ゆとりを感じるような生活を！と参加者にエールが送られ全日程が終了しました。

組織活動はなかなか先が見えず役員だけが大変というイメージがありますが、他人まかせではなく「忙しいから」という一言で片付けてしまわずに自分達の女性部・魅力溢れる組織となるようにJA中標津女性部全員で盛り上げていきましょう！

J A根室地区青年部連絡協議会の平成16年度根室地区J A青年部大会が、17日に中標津町内のウエディングプラザ寿宴で開かれました。組合運動の先駆者となる根室管内の農業青年百余名が一同に会し、北海道立根釧農業試験場の研究部・原仁経営科長の記念講演「最近の農業情勢と青年農業経営者に期待すること」を聴き、午後からの分散会では4つの部屋に分かれて、今大会のテーマとなったチャレンジ「酪農・My Business」について熱く語り合いました。

同協議会では、例年この大会を全道大会の前哨戦として位置付け、地区代表J A青年の主張発表者の決定などが行われています。また、今年度については全青協50周年記念として行われる新J A青年の歌カラオケ大会の出場権獲得をかけた北海道大会に、立候補参加される金川誠（J A上春別青年部）さんの歌とコスチュームのお披露目も行われました。

J A根室地区青協の大会会長は、「当地域で多くの盟友が関連する酪農情勢について、来年度は生産調整もあるのでは」との声も聞こえてきている。私たち農業青年に期待されることについて、今一度考え協力して難局を乗り切っていく」と挨拶しました。

続いて来賓として挨拶に立った根室管内J A組合長会の丹羽忠文会長より「3年ほど前から、酪農情勢にかげりが見え始め、今年は顕著化してきた。これだけ暑い夏であっても飲用牛乳の販売がそれほど伸びなかったため、加工にまわる生乳が多く、農業団体の努力で費用をかけて消化されつつあった脱脂粉乳が年度の終わりに、また、在庫積み増しになりそうである。

## 酪農における、自身のビジネス展開などを検討

根釧農業試験場原仁科長からは青年経営者へのエールとなる情報が紹介されました。

2 中規模経営(乳牛100頭前後)  
投資がほぼ完了したので経営内容の充実を目指す。  
3 大規模経営(乳牛200頭以上)  
雇用労働力を利用した経営でこれから増加する可能性がある。酪農作業のマニュアル化と人材活用能力。



しかし、生産調整にはならないように協議を重ねてきている。酪農業が産業として成り立つためには、前年を下回るような生産実績であってはならず、実績確保に向けて、下期も組合を背負って立つ若い力で地域と農業の牽引役として頑張ってもらいたい」との檄が飛びました。

記念講演の講師、原仁科長からは「最近の農業情勢と青年農業経営者に期待するもの」として①最近の農業情勢②酪農の状況③青年農業経営者に期待するものの3点について分かり易く、また、重要な

事柄は掘り下げて説明を受けました。青年農業経営者に期待するものについては「①自分の性格にあった経営者像をイメージし、②家族が望む方向性と摺り合わせ③数年後、数十年後の農場をイメージし④実現に必要な所得と余暇時間のバランスを取る」と。この①から④のサイクルを何度も繰り返し返して近づけていくもの。先進的な道東は、頼めば酪農家の全ての仕事を支援システムが代わりをしてく



分散会では各自ビジネス展開を語り合いました

るほどに成熟している。経営規模拡大と経営充実という選択の時、どのように進むかが経営者に求められるものである」との話を自身の考えている今後の農業との関わりなどを交えながら紹介されました。

J A青年の主張発表では「酪農のラクって何だろう」と題し、中学卒業後、農業とは違う建設業の道に進んだが、家業を意識して戻り、試行錯誤の中、人との出会いや青年部活動によって自分の将来像を描き、わからないことを聞いたり図書館で調べて牛舎を改造・改築して失敗を繰り返しながら乳量増に向かっていたことなどを紹介しながら、楽しめる仕事だから酪農なんだと締めたJ A中春別青年部の猿谷忠義さんが管内代表となり、12月2、3日に行われた全道大会で発表しました。

# さわやかな交流の汗を流す

## ●交流ソフトバレー大会

当農協青年部と中標津町商工会青年部による共催行事の交流ソフトバレー大会が11月7日、町営体育館で開かれ両部から総勢50人余りが参加し、冷え込みが厳しくなってきた体育館の寒さを吹き飛ばすような豪快なプレーで、爽やかな交流の汗を流しました。

この行事は、先に行われた両部などによる共催事業「じゃがいも伯爵まつり&ふれあい広場」の実行委員会において役員の間で、「伯爵まつり以外にも両部で交流の場があればよいのでは」という意見から企画・実行されたもの。当初、当青年部が9チーム、商工会青年部側が3チームの合計12チームによる3ブロックでのリーグ戦から決勝トーナメントで上位チームを決めるという計画でしたが、

当日の人数不足から当青年部は5支部から各1チーム、商工会青年部が3チームの合計8チームで2リーグから3チームずつ勝ち上がり、6チームによる決勝リーグで勝敗を決することとなりました。



競技は終始、和やかな中で進められ、両部の若手から中堅、役員クラスまで、自ら体に鞭を入れつつ白球を追いました。両部で積極的な会話ができるような仕組みがとればもっと両部間で交流できたのでは、ということが次回に向けての重要課題です。

### 試合結果は次の通り。

▼優勝Ⅱ俵橋ボンバーズ、2位Ⅱ武佐支部、3位Ⅱ楽天ライブドア(商工会青年部)。

# ～農が育む明るい暮らし～ をテーマに

## ●ねむろ農村女性フェスティバル



加工部会の活動を紹介



第5回ねむろ農村女性フェスティバルが11月18日、町内・寿宴にて開催され、主催となる「ねむろ農村女性グループネットワーク協議会」に加盟する、

食品加工交流部会会員らを含む、当J A管轄の女性グループなど管内100人ほどの農村女性が一同に会しました。

新得町でファームインを経営されている湯浅優子さんを講師に迎え、「農村の暮らしとスローフード」について、自身の経験

から北海道の食材について、「まだまだ知られていない事だらけ。このようなグループ活動などの情報交換により知ることができるとし、地域の魅力があちこちにあることを伝えることができる。自分の農業に対して自信と誇りをもつことによつてやれること、できることの幅が広がる。」などと話されました。講演終了後は、昨年から行われるようになった各グループ自慢の手作り加工品・料理の試食交流会、また、グループ活動や作品の展示販売交流などが開催され、会場は大いに賑わい、農業を通じた活動の中から、明るい暮らしを見いだすきっかけとなる有意義な一日となりました。

# 道東の大自然を楽しみました！

## ●女性部青葉会宿泊研修旅行

初冬、11月19、20日の2日間で、女性部青葉会の宿泊研修旅行が、当日体調不良による欠席者1人を除く13人の参加により行われました。

弟子屈・川湯方面にバスを走らせ、まずは自然塾・野の花美術館にて、簡単な作業で、野山でさえざる鳥の声が出せるバードコールを作りました。完成後は、ハーブティーで心の休憩。昼食は、屈斜路プリンスホテルでランチバイキングを堪能し、いよいよ宿泊予定の川湯温泉街へ。ホテルに入る前に、川湯エコミュージアムセンターで、



できあがった作品を前にパチリ!

落ち葉や枯れ枝、松笠・どんぐりなどを利用してのネイチャークラフトに挑戦。センター脇の林で材料を拾い集め早速開始。蜂やセミ、ウサギや鹿など、切ったり接着したりと、童心に返りそれぞれが思い思いの作品を作りました。

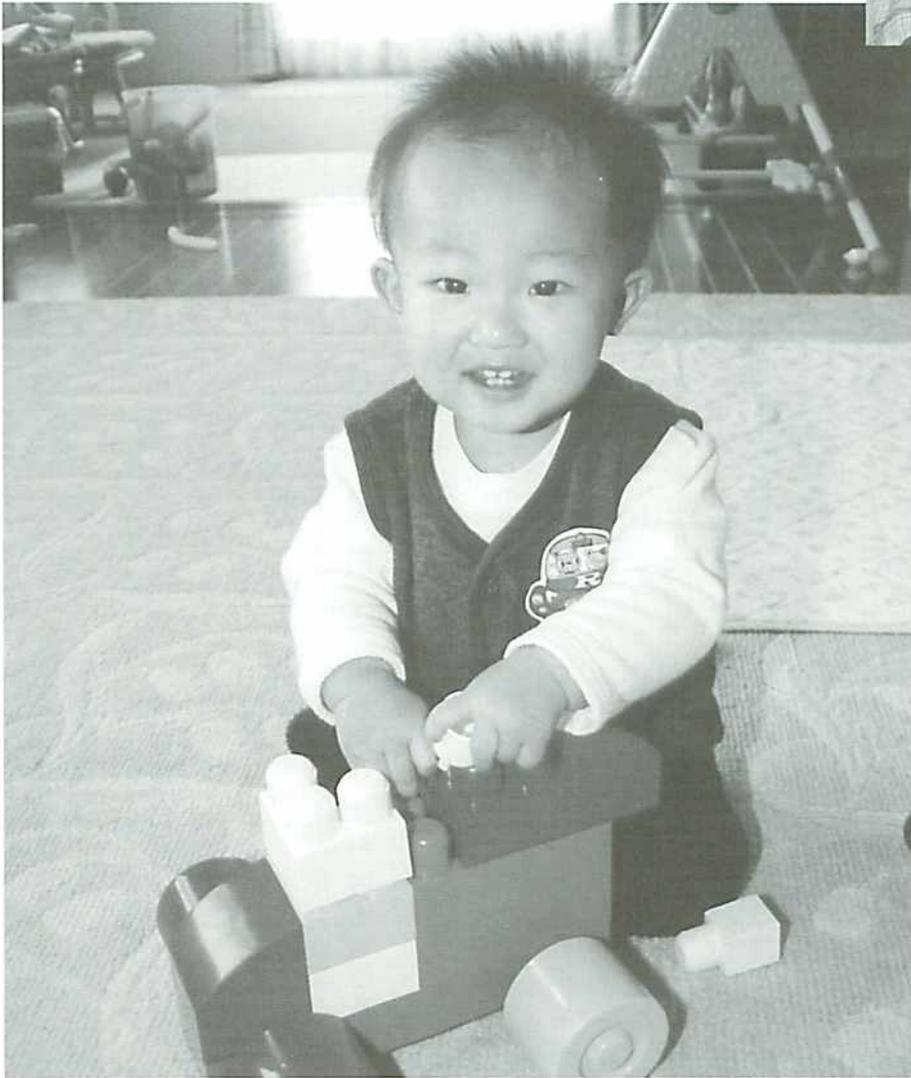
宿泊先・きたふくろうに到着。まずは、心と身体の健康のため、血流をよくするレインボー体操を行い、入浴前にうつつら心地よい汗をかきました。入浴後は、いよいよ大宴会。カラオケにゲーム大会とお腹を抱えるほど食べて飲んで笑って、楽しい楽しい研修旅行となりました。

# アイドル IDOL

## 表情豊か、育ち盛りの将太郎くん



お父ちゃんの仕事中にこっそり3人でハイ、チーズ!



今年のカレンダーも最後の一枚となった12月の人気者は、開陽地区赤堀将仁さん宅長男・将太郎くんです。たった二日で真冬と化した明くる日、除雪作業の疲れを吹き飛ばすかの笑顔で出迎えてくれた将太郎くん。

赤堀家待望の第一子として生まれた将太郎くんは、牛はもちろん犬や猫など動物が大好きで、「とうちゃん、かあちゃん」とはまだ言えないけれど「ニャーニャー」と猫の鳴き声を真似するのだとか。それから、音楽に合わせて踊るのが最近のお気に入り。この日も、おもちゃのボタンを自分で押し、流れる音楽に合わせて何度も楽しそうに踊っていました。また、おもちゃの携帯電話でお話することを覚え、電話がなくても手を耳にあてて「もし

### 赤堀 将太郎くん

あかほり しょうたろう  
2003年11月23日生  
赤堀将仁・和美さんの長男として生まれる



もし」とポーズするのだそうです。

少し前はお母ちゃんの和美さん曰く「あやしてくれる人に申し訳なくなるほど」無表情だったというのだが、最近では人が大勢いる方が笑顔&機嫌も良いし、大好物の果物を見ると目を輝かせ、発する歓喜の声も違い、手を叩いて喜んだり、とっても表情豊か。機嫌が良いとおしりでぐるぐる回転したり、幸運な事にこの日も披露されました。

さて、そんな将太郎くんのことからについて、お母ちゃんに尋ねると「元気に育って、寿命を全うしてくれれば……と、切なる想いを話してくれました。

お母ちゃんをはじめ、将太郎くんの誕生を誰よりも心待ちにしていたお父ちゃん。将太郎くんがとにかく可愛いおばあちゃん。家族の温かい想いを受け、たく永い人生を謳歌できるようがんばって！  
将太郎くん。

# 農業の基本は、 消費者あつての生産者



大笹牧場の説明を受ける参加役員

11月2日から5日までの行程で行われたJA中標津役員研修の模様を、参加された清原賢一理事より報告されましたので、掲載いたします。

## ◆研修1日目

栃木県酪農業協同組合(栃酪)大笹牧場の立地は、日光国立公園の赤嶺山南東に面し、標高1030メートル、1310メートルの高地に位置、年間平均気温が6〜7度(最高30度、最低マイナス12〜3度)降水量も2500ミリメートル。夏は特有の濃霧が発生(訪問のこの日も濃霧)し、冬は50センチメートルの降雪があります。

預託育成牛の夏期放牧場として、

昭和32年に116ヘクタールの民有地を買い受け、乳用種育成牛放牧事業により開設されました。その後、大笹関連林道が完成。放牧地も国有地などの貸付払い下げを受けて、現在は362ヘクタール(うち草地面積280ヘクタール)毎年400頭近い牛を放牧しています。

また、組合員からの預託事業だけではなく観光を兼ねた動物とのふれあいと搾乳体験などを行い、畜産のすばらしさをアピールをする牧場体験を展開しています。

の一方で、組合所有のブラウンスイス牛を現在75頭飼養し、生産される牛乳を製造部門へ供給して飲用乳、ピン牛乳、アイスクリーム、ソフトミックス、ヨーグルト、バターなどの乳製品に加工し販売していることも大きな特徴です。

牧場の一角にレストハウス、霧降高原有料道路が開通、52年に営業開始、年々高原の風を求めて観光者も多くなり、平成9年に建て替えリニューアルオープンしました。レストハウスは、製造された乳製品が陳列されてお

り、通信販売の受注も受けておりました。年間110万〜120万人の来場があります。

## ◆研修2日目

平成15年に年間15,000トンを生産し日本一の牧場になった農業生産法人(有)ジェイ・イー・ティー(J・E・T)ファーム(代表取締役会長・篠田修紀氏、社長・篠田教雄氏)を視察見学させていただきました。乳牛による生乳の生産と当牧場で生産された和牛交雑種の育成肥育を行っています。

もともと、北海道江別に牧場を持っておりましたが、大消費地に近い北関東がこれからの畜産に有利と考え、事業主体を栃木県に移し首都圏への供給を中心に取り組んできました。素牛については北海道のホクレン市場から初妊・育成牛を導入。初妊牛は、いずれも黒毛和種を種付けしたものの、2産目以降も黒毛和種を種付けします。育成牛は、別の牧場で受精卵移植による和牛生産を行なっています。以前は、育成牛をオーストラリアからも導入していましたが、価格の高騰によって国内生産価格と大差なくなつたことから国内産に切り替えています。

搾乳施設は、25頭ダブルのパラレルパーラーで、1時間に約230頭を搾乳します。飼養搾乳牛2,000頭のうち現在搾っているのは1,600頭。乳価は92〜93円。これだけ大規模の頭数に対する種付け、分娩などの管理を聞くと、種付けについては人工授



大貫企画業務部長の案内でJETファームの堆肥センターなどを視察

精と自然交配によって全てF1の子牛を生産しています。種牛をある程度のロープに繋いでおいて、発情牛が寄つてきて自然交配する仕組みになっていました。また、専属の獣医師とスタッフによって健康管理、発情・妊鑑を行っています。飼料は前述の通り全て買い餌で、乾牧草はアメリカ、カナダ、オーストラリア方面からの輸入に依存しています。今後は農場でコーンサイレージを生産する予定もあります。ほかの配合飼料は、ビール・しょうゆ・パイン・大豆粕、綿実、加熱とうもろこしなどでした。

糞尿処理施設は、時間の関係で一部分のみとなりましたが、乳牛と肉牛の生糞を混合し、プロアー施設による好気性発酵とスクープ式の発酵処理機の組み合わせによって、約3カ月で製品化しています。地元の農家や肥料業者へ販売する分と、発酵堆肥におがくずを20〜30%混合し敷料として再利用化を図っていました。

研修を終えて、農業(酪農)の基本は1つ。消費者あつての生産者。消費に対しては今後も安全と安心を売り物にしていかねばならないと強く感じて帰途に着きました。

# 普及の窓

## 繁殖成績の良い農家に聞いた「繁殖管理のコツ」とは!?

北根室地区農業改良普及センター

繁殖成績の良い農家のお話しを集めてみました。お話しを聞くうちに「繁殖へのこだわりと工夫(コツ)」が見えてきました。(図1)

### 1. 牛の発情(発情を見せる)

発情を発見し受胎させるためには、「牛の発情がキチンと来る」ことが必要です。成績の良い農家では、飼養管理技術の水準が高く、分娩前後の管理をしっかりとしていることから卵巣、子宮の回復も順調に進み牛が明確な「発情兆候」を示しています。

### 2. 早期発見(早く見つける)

乳牛の発情には「授精をするための発情」、「授精後受胎していない

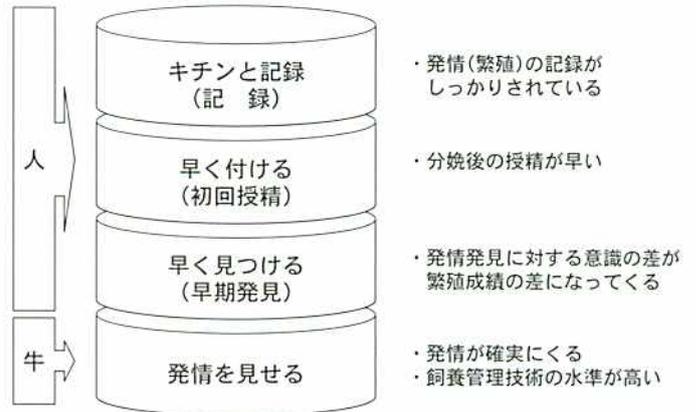


図1 繁殖のコツ 優良農家の共通点

ことを示す「再発情」の2つがあります。この2つの発情を発見するために成績の良い農家では、「発情兆候をいつ見るか、何を見るか」が決められています。(図2) また、繁殖管理の全体について把握している責任者がいることも共通しています。

### 3. 初回授精日数(早く付ける)

成績の良い農家では、分娩後40から50日頃の「初回発情」とそれに続く50日から60日頃の発情を特に注意して確認しています。

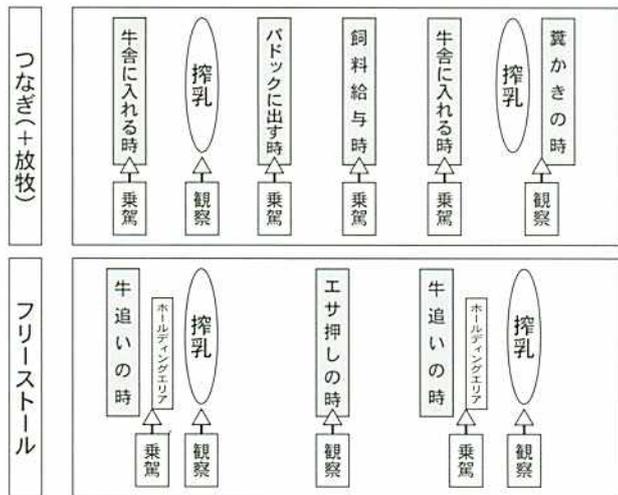


図2 発情発見(観察)の実施事例

この時期の発情を確実に発見し授精することで、初回授精日数が短くなり分娩間隔も1年1産をするための適正範囲になっています。(図3) 分娩後の確実な発情チェックと早い授精開始が繁殖成績を良くしていることがわかります。

### 4. 記録システム(キチンと記録)

成績の良い農家には、繁殖に関わる情報を記録するシステムがしっかりとありました。「どんな情報を」「誰が」「どのよう(何に)」記録するかが発情を見つけて出し授精するカギとなっています。(図4)

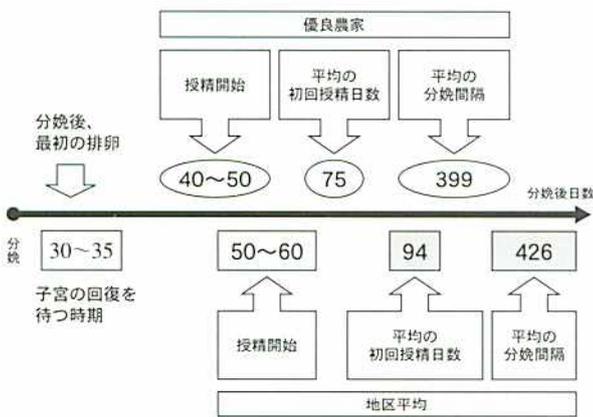


図3 初回授精の開始と平均初回授精日数



図4 繁殖管理の記録システム

# 11月の組合動静

- 2日(火)…役員研修～5日、協和地区利用組合精算会議
- 4日(木)…乳質向上委員会、ルーキーズカレッジ、青年部プロジェクト
- 5日(金)…青年部プロジェクト、熟年会役員会
- 7日(日)…資格認定試験(中級)、青年部商工会青年部交流ミニバレー大会
- 8日(月)…担い手創出協議会1期生海外研修～16日(NZ)、北根室地区農村女性講座
- 9日(火)…小学生農家見学＝東小学校(小林茂農場)、同志会役員会
- 10日(水)…ルーキーズカレッジ、小学生農家見学＝中標津小学校(高橋正一牧場)、だいこん精算打ち合わせ
- 11日(木)…新採用職員面接、あるる定休日、根釧農試酪農講座(農業試験場)、全道女性大会～13日、ブロッコリー精算打ち合わせ
- 13日(土)…JA中標津機械利用組合例会
- 15日(月)…定例自治監査～18日、ヘルパー利用組合9月末監査
- 16日(火)…馬鈴薯振興会役員会
- 17日(水)…ルーキーズカレッジ、青年部根室地区大会(寿宴)、グリーンアドバイザー研修会
- 18日(木)…いっぶくの会～19日、農村女性フェスティバル、青年部組織強化委員会、スペース精算会議、Jrホルスタインクラブ運営委員会
- 19日(金)…女性部青葉会宿泊研修～20日、根室農業賞授与式、ラポール精算会議、税務研修会、馬鈴薯全体会議
- 20日(土)…青年部役員会
- 21日(日)…資格認定試験(上級)
- 22日(月)…農協総合共進会代表者会議、共済組合打ち合わせ、スペース会議
- 23日(火)…JC主催ボウリング大会
- 24日(水)…ルーキーズカレッジ
- 25日(木)…あるる定休日、第5回営農委員会
- 26日(金)…女性部フレッシュミズ交流会、北海道農業青年と関西女性との交流会～29日、第4回生産委員会、第2回管理購買委員会
- 27日(土)…第7回理事会
- 29日(月)…資源リサイクル事業負担金徴収説明会、NPK精算会議
- 30日(火)…中標津地区集落推進委員会

## 第7回 理事会 の 経過報告

開催月日 平成16年11月27日  
開催場所 農協中会議室

### 〈決議事項〉

1. 農協法改正に伴う共済規程の変更について
2. 第12回臨時総会開催日程と提出議案について
3. 平成16年度9月末定例自治監査の回答について
4. 永久劣後ローンの取り扱いについて
5. 業務代理告示の改正に伴う信用事業方法書の変更及び行政庁への届出について
6. 労働基準法改正に伴う職員就業規則の改正について
7. 労働基準法改正に伴う准職員就業規則の改正について
8. 労働基準法改正に伴う労働協約の改正について
9. 「育児休業、介護休業等育児又は介護を行う労働者の福祉に関する法律の一部を改正する法律」に伴う育児及び介護休業規程の改正について
10. 第4次電算システム移行に伴う職制規程の変更について
11. 不祥事対応要領の制定について
12. 「不祥事の未然防止及び不祥事対応要領の制定」に伴う経営定期点検実施要領の改正について
13. 各資金の借入申込について
14. 酪農ヘルパー基金取崩しについて
15. 平成16年度生乳生産枠の取進めについて
16. 乳製品工場製造ライン改修に伴う固定資産の取得について
17. ブロッコリー生産に伴う基金造成による大根価格安定基金の運用の変更について(大根価格安定基金↓野菜価格安定基金)
- 〈報告事項〉
1. 第5次地域農業振興計画進捗状況について
2. 平成16年度各種補助事業実績について
3. 平成16年度中山間草地整備実績について
4. 平成16年度畜産環境整備リース事業実績について
5. 平成16年度農協有スプレーヤー事業実績について
6. 平成16年産源馬鈴薯出荷実績について
7. 平成16年産生食・加工・種子馬鈴薯の精算と平成16年産の仮払いについて
8. 平成16年度原種農場収支見込みと原種代金の設定について
9. 平成16年産大根・ブロッコリーの精算実績について
10. 平成16年産てん菜出荷見込み、その他野菜生産実績について
11. 乳質乳価を加味した乳代精算の見直しについて
12. 平成16年度北海道生乳安定化対策事業費の取り扱いについて
13. 土地利用型酪農推進事業について
14. J A O C (農協広域石油宅配センター) 中標津基地 施設管理業務委託について



小学校3年生が  
農業を学びました

中標津東小学校の3年生の児童が  
11月9日、俣落地区の小林茂農場に、



小林農場の機械庫で質問する児童

10日は中標津小学校3年生の児童が  
武佐地区の高橋正一牧場へ見学に訪  
れ、社会科学習の一環として農業の  
ことを学びました。



パーラー室内で牛のことを話す高橋正一氏

結婚おめでとうございます

俣落地区山口廣幸さん・洋子さん  
の次男山口耕治さん・玲子さん（旧  
姓・長谷川）の披露宴が11月14日・  
ウエディングプラザ寿宴で開かれま  
した。おめでとうございます。



写真右から山口廣幸さん、洋子さん、耕治さん、玲子さん

酪農ヘルパー要員の研修会が  
開かれました

根室地区酪農対策協議会とJA北  
海道中央会中標津支所は共催で平成  
16年度第一回酪農ヘルパー資質向上  
研修会を中標津町内の根釧農業試験  
場で開きました。

この研修は、酪農ヘルパー要員の  
技術力を高めることなどを目的に、  
昨年からは開いているもので、今年度  
はこの開催が1回目。根室管内の酪  
農ヘルパー利用組合に所属する専任、  
臨時ヘルパー員60余人が参加。  
研修会では、委託者が酪農ヘルパ

ーを利用する主要素となっている「農  
作業事故」の発生状況と事故防止に  
向けた事例講演を北海道農作業安全  
運動推進本部の千葉利事務局長が行  
い。酪農ヘルパー要員がヘルパー作  
業中に事故やケガに遇わないように  
注意を喚起したほか、午後からの実  
習作業では、作業中の物損事故が多  
いトラクターにミキサなどを牽引  
した状態での後退運転作業やタイヤ  
ショベルでの除糞作業・サイレージ  
給与を模した作業練習。スキッドロ  
ーダー、トラクターローダーでの除  
糞作業などを実際に作業機に乗って  
体験し、農機具メーカー担当や根釧  
農業試験場管理科職員らから指導を  
受け技術向上に努めました。

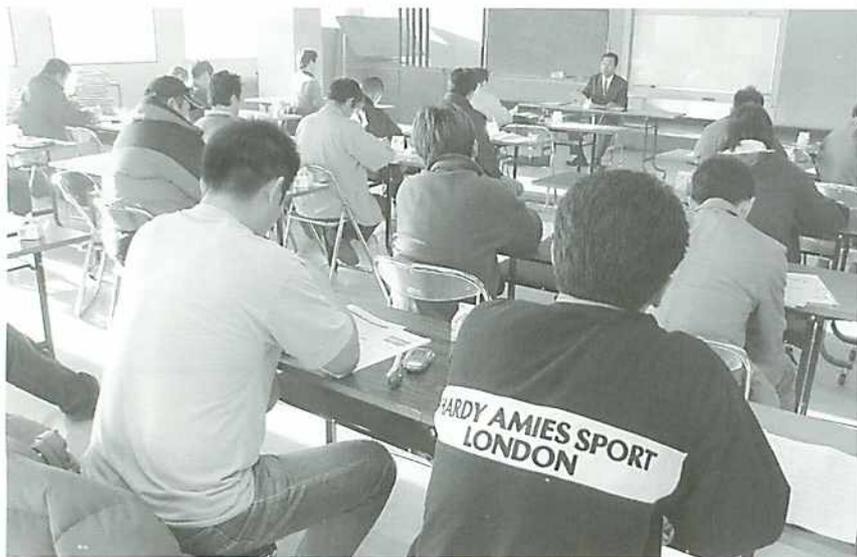


牽引機機特性などを学び実践しました

## 税務研修会が開かれました

課税対策委員会、同青色申告会は11月19日、根室税務署の竹内勝利統括国税調査官を招いて、平成16年度所得税改正の変更点や消費税などの対応についての税務研修会を開きました。

以前は牧草の取量調査を農協職員や普及センター職員と税務署員が協力して行うなどの接点がありました



年度末の申告シーズンを前に熱心に聞き入る参加者

が、取量調査が行われなくなり、税務職員担当者が変わったり、農協担当職員が変わったりと双方の顔ぶれがわからなくなってきたことから、数年前から毎年11月に行うようにしているもの。

今回の研修会は平成16年度の改正においては、配偶者特別控除について所得が38万円以下のもは配偶者控除のみ、38万円を超えるものについては、所得額に応じて段階的に配偶者特別控除適用される。

土地建物等の長期譲渡所得における課税特例の改正では長期・短期とも税率が引き下げられたものの長期譲渡所得の100万円特別控除が廃止された。

来年度からの改正については老年者控除や青色申告の簡易簿記控除が廃止されることなどが報告されました。

先に行われた平成15年度の税制改正で消費税については、平成15年度の時点での課税売上高1、000万円を超える者が平成17年度分から課税事業者となることから多くの納税者が課税事業者届けの提出が必要になること、簡易課税制度の適用上限が5、000万円に引き下げられたことなどが伝えられ、参加者は熱心に聞き入っていました。

## 人と乳牛の快適空間の体系化を目指して研究会が行われています

快適牛舎研究会の第6回目となる会合が24日、中標津町内の根釧農業試験場講堂で開かれ農業試験場の技術員や根室管内の設計・建築業者、普及センター職員などが意見交換しました。



農業者の参加も可能ですのでJA経営企画まで

今年6月に酪農家や農協、普及センター、設計・施工会社などと協力して「人に牛に快適な牛舎」の普及促進を目指した技術体系化チームを設置したもので、「酪農家が牛舎建築時などに突き当たる素朴な疑問や牛舎環境に関する問題点、また施設設計の教科書的なものはないものか」という要望を解消していくために、平成18年までの3年計画で「快適牛舎」の体系化に取り組むもの。

これまでに、給水器、牛舎内の換気、飼槽構造、ネットワークなどの牛床構造などが話題提供として出され、第6回目の今回は牛舎の通路床構造について議論され、給水器のまわりに必要な寸法や通路幅の考え方、通路の床に付ける目地などについて紹介されました。

今まで海外で良いとされた酪農技術や施設も日本の風土には向かないなど、最新技術を試すにも個人では費用面などでリスクがあため、こういった試験研究機関の研究結果が出てから考えることが生産性の向上とコスト削減につながっていくものとして管内の酪農家に注目されてきており、窓口となる農業試験場の技術体系化チーム事務局を務める山川政明技術普及部次長も「酪農家が抱える様々な施設関連の疑問を解消する会にしたい」と研究会に酪農家が参加して現場の疑問を投げかけて欲

この研究会は、根釧農業試験場が

しいと話しています。次回は、年明け1月中旬の開催。酪農場のレイアウトなどについて話題提供される予定です。

## 酪農ヘルパー対策委員会が組織されました

根室地区酪農対策協議会は、11月25日、中標津町内の根室農業会館で酪農ヘルパー対策委員会設立会議を開き、規約や役員などを満場一致で可決・承認しました。管内各地で運営されている酪農ヘルパー事業において横の連携を強める役割を担うものです。



連携し足腰を強めようと久保利委員長（中央）

根室管内には8農協のヘルパー利用組合と、2つの農協関連酪農ヘル

パー会社および個人でヘルパー的の事業を行っている経営体があります。しかしながら、酪農ヘルパー利用組合などの横の連携を強める母体が無く、協議会的な機能を持った団体の創設が叫ばれていました。

これを受け、根室地区酪農対策協議会の中に今回、酪農ヘルパー対策委員会を設置して根室地区における酪農ヘルパー組合の健全な運営を推進することとしたもの。

ヘルパー事業については酪農ヘルパー利用拡大事業や傷病時利用円滑化事業などの国の事業が今年度で事業年度を終えることから、いまや酪農畜産業になくてはならない位置付けとなっている酪農ヘルパー関連補助事業の継続を強く訴えていかななくてはならないという声根室管内でも高まっています。

## 「忘れられない北のあの味」エッセーを募集しています

特定営利活動法人の小田豊四郎記念基金事務局は「忘れられない北のあの味」エッセーを募集しています。今回、2回目となる全国公募で、昨年応募があった135編から、今年の6月に「忘れられない北のあの味（1）」を刊行、小中学校に贈呈されています。

小田豊四郎氏は六花亭製菓株式会社社創業者として70余年に渡ってお

菓子造り一筋に歩み続け、お菓子の街をつくった男と言われています。北海道の食文化の発展を願う基金が創設され、その事業の一環として募集されるもの。

### ▼応募要領は次の通り

- 1・テーマ 北の食べ物にまつわるエッセー。「北」とは北海道に限らない。
  - 2・応募内容 1000字以内。原稿用紙かフロッピー、メールにて。作品タイトル、氏名（ふりがな）、年齢、性別、職業、郵便番号、住所、電話番号明記。原稿は返却不可。採用原稿の著作権は当基金に帰属します。
  - 3・応募締切 平成17年1月31日（必着）
  - 4・贈呈 応募者全員に当エッセー集が贈呈されます
  - 5・問い合わせ先 〒0005100 札幌市南区真駒内上町3丁目1-6 喫茶・六花文庫 付「小田豊四郎記念基金事務局」011-588-6666
- メール  
oda-kikin@north.hokkai.net  
ホームページ  
<http://www.oda-kikin.com/>  
(担当・日浦さん)

## 編集雑誌

▼今年も残すところ後わずかなりましたね。皆さん昨年立てた計画はどうでしたか。私は現状維持。良く言えばであって、一昨年と変化してないということとは悪く言えば成長していないとも言えてしまいます。来年こそは、がんばろう。

▼12月5日の豪雪は、天気予報でわかっているにもかかわらずいものでした。施設の倒壊に見舞われた方もおり、これからの季節に不安が残ります。不安といえは、地震。やたらと、大きな地震が発生していますね。地震による耐震装置の起動などにも注意深く見てみなければなりませんし、自然災害の事後処理についても気を配らなくてはなりません。とっさの時のための非常用持ち出し袋も備えあれば憂いなしです。

▼表紙の雪だるまは5日の深夜にかけて実際に作ったものです。大きく作りすぎて帽子などがついたらダメでしたが、全部で6体完成させました。子供のころに作った記憶で雪だまを転がせば出来ると思ったら大間違い。なかなか技術とセンスが必要な作業でした。センスなしの（ま）

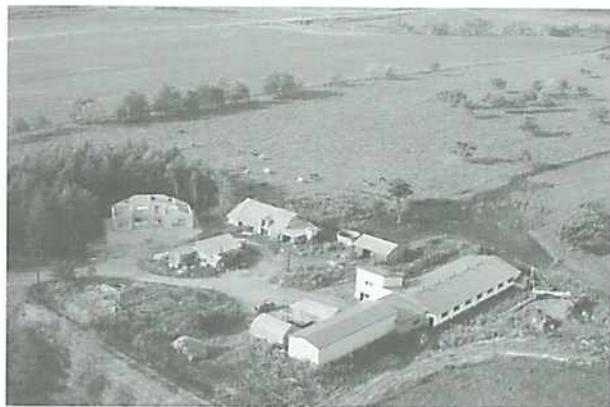
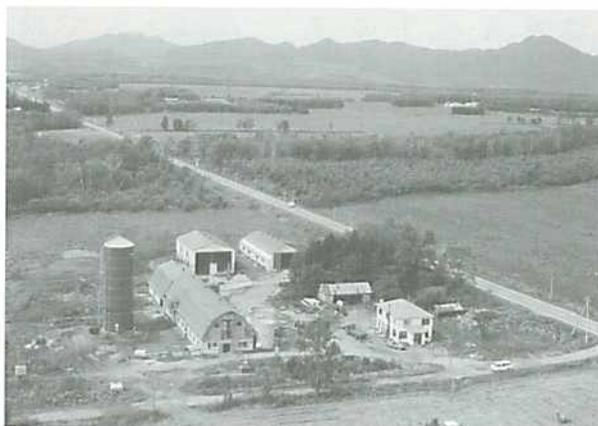
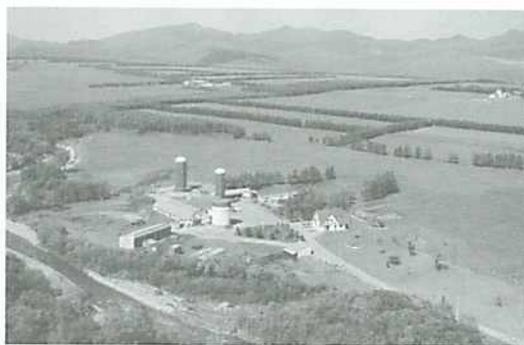
## ◆12月の行事予定

- 1日(水)…地区別懇談会～当幌、中標津地区  
営農計画書作成～25日
- 2日(木)…地区別懇談会～俵橋、開陽地区、青年部全道大会～3日(札幌)、女性部ビーズ手芸教室
- 3日(金)…地区別懇談会～第2俣落、西竹、俣落、武佐地区
- 4日(土)…
- 5日(日)…
- 6日(月)…馬鈴薯耕作者全体会議、熟年会役員会
- 7日(火)…中標津農業高校実績発表会
- 8日(水)…J A 中標津機械利用組合視察研修、乳牛改良同志会反省会
- 9日(木)…あるる定休日、青年部PR委員会・組織強化委員会
- 10日(金)…畜産セミナー
- 11日(土)…
- 12日(日)…J A 中標津杯ソフトバレーボール大会
- 13日(月)…
- 14日(火)…青年部反省会、女性部第3回役員会
- 15日(水)…
- 16日(木)…
- 17日(金)…
- 18日(土)…J r ホルスタインクラブウインタースクール
- 19日(日)…
- 20日(月)…第12回 臨時総会、第8回理事会
- 21日(火)…
- 22日(水)…
- 23日(木)…
- 24日(金)…
- 25日(土)…
- 26日(日)…
- 27日(月)…
- 28日(火)…
- 29日(水)…
- 30日(木)…業務納め
- 31日(金)…

# タイムスリップ ギャラリー

# 12

## VOL.3



古き良き時代を  
懐古する。

## Q クイズ 11月号の解答

●問題＝組合員さんへの訪問回収は14日、15日の2日間でしたが、この2日間で集められた貯金総額はいくらだったでしょうか。一番近い方を正解と致します。

○正解＝10,929,018円、組合員の皆さま本当に協力ありがとうございました。

クイズの方は一番近い方が正解ということでしたが、回答を送っていただいた方がいらっしやなくて残念です。

## ◆12月号の問題◆

●今回で3回目のタイムスリップギャラリーですが、写真を提供していただいているコニカミノルタより写真の注文について、12月末で締切としますとの連絡が入っております。大伸ばしで額に入った状態での納品となります。金額などについては経営企画課までご連絡ください。

さて問題。上記ギャラリーの組合員さんはどなたでしょうか。約20年前の状況です。3軒分回答下さい。

◆応募要領◆ 同アンケート用紙または、紙に答えなどをご記入の上、事務所備え付けの応募箱または、FAXにて経営企画課までご応募ください。